

Main Articles



アニメとコラボレーション

群馬サファリパークは、テレビアニメ「群れなせ! シートン学園」とのコラボレーションを実施している。

[2]



横浜みかん専門店がオープン

サテイスファクトリーは、愛媛県西予市明浜町で収穫されたミカンのみを販売する「スリーズ高崎小島店」をオープンした。

[7]

リース・レンタル特集



リース・レンタル特集 4面

今週の掲載データ

- 知事会見 2・3面
●建築計画情報 5・6面
●県内不動産競売予告情報(農地) 7面
●隣県不動産競売予告情報 8~10面
(さいたま地方裁判所川越支部: 8・9面 さいたま地方裁判所越谷支部: 10面)

「ホテルグランビュー高崎(高崎市柳川町)を運営するグランビュー(木本高)朗社長は、同ホテルを全面改装し、8月にもリニューアルオープンする。20億円超を投じ、新たに屋上に露天風呂を備える大浴場を設けるほか、客室も一新、露天風呂付きの特別室なども用意する。一方、機械式の立体駐車場も取り壊し、自走式の駐車場を整備する予定だ。」

同ホテルは高崎ビューホテルの営業終了に伴い、ドンレミーのグループ会社で駐車場管理のコパルクと地元業者が共同出資し17年9月に設立したグランビューが引き継ぎ、18年1月から新たに営業を始めた。今回の全面改装は、ホテル存続に当たって課題となっ



特別室の完成イメージ

いた建物の耐震補強工事に併せて行ったもの。1階にはチェックインカウンターのほか、喫煙室などを増設。自動チェックインシステムを導入し、宿泊者の利便性向上を図る。同じく1階のレストランは従来の2店舗を1店舗に統合し、「グ

ランシエル」としてオープンする。当面は宿泊者のビューンとして活用し、その後、ランチ、ディナー営業を始める。5~8階までの客室部分は東京オリピック・パラリンピックの開催やGメッセ群馬の開業などを視野に、6月に先行オープンす

20億超投じ全面リニューアル 屋上に大浴場、露天風呂付き客室も

ホテルグランビュー高崎

る。客室数はこれまでの115室から112室に変更する。部屋のタイプはシャワーのみのシャワーシングル(8室)、エコノミーシングル(8室)、スタンダードシングル(67室)、ダブル(14室)、ツイン(8室)など。全部屋のベッドはシモンズ製でテレビは49インチ以上、ズボンプレス、電子レンジ、加湿機能付き空気清浄機なども常設。宿泊料金はプレオープン時は6000円台から予定している。特別室は7室で40~60平方メートルの広さ。このうち1室は露天風呂付きとする。これまで活用していたなかった屋上には大浴場を整備する。榛名山など周囲の景観や、花火大会などの際も楽しむことがで

きると見込んでいる。宴会場や4階部分のレストランなどは改装することなく、現在も利用が可能。また、ホテル北側の機械式立体駐車場「パーク108」は老朽化が進んでいたことや、出庫者が集中すると待ち時間が長くなっていたこと、コスト削減などの面から、自走式に刷新する。2階建て3層で駐車台数は約100台。2月から解体工事を始め、10月の稼働を目指している。同社では「ビジネス関連だけでなく、ファミリー層、外国人観光客、アスリートなどにも利用してもらいたい。部屋ごとに異なる内装にするので、何回も来て楽しんでほしい」と話している。(湯浅順一)



図面の作成から赤石社長が一人で完成させた

同社では95年1月に発生した阪神淡路大震災をきっかけに、約15年前から一般家庭用防災シールドの開発に着手。当時は創業間もなく設備も整っていないことが多かったこと、図面の作成まで開発は一時中断した。しかし、台風や地震など自然災害が増加する中で、避難所に避難する途中に被害に遭う人も多くいることを知り、防災シールドの必要性を痛感。敷地内に防災シールドも製作可能な溶接工場が完成するなど設備が整ったことから、19年8月に開発を再開した。開発再開後の10月には台風19号により高崎や太田などで床上・床下浸水

被害が発生。富岡では土砂崩れによる家屋の損壊など、本県でも多くの被害が出た。この状況を見て「必ず完成させなければいけないという思いが強くなった」と赤石社長は語る。12月に完成した防災シールドは、ギリギリシャワーで「鉄壁の防御」を可能とする万能的な盾を意味する「AEGIS」と命名。一番弱い部分でも14センチの圧力に耐えることが可能という。サイズは2、3人用から5、6人用までの4通りがある。最も小さいシールドの外形寸法は、横幅3777mm×奥行2300mm×高さ2400mmで、居住スペースは約2.5畳。2段ベッドや備蓄棚などが設置される。出入り口は側面ドアと上面ハッチがあり、希望により側面ドアは4カ所、上面ハッチ2カ所ま



新川市行幸田の新店舗イメージ

県内で14店舗を展開する群馬ダイハツ自動車(前橋市大渡町、佐藤哲也社長)は、高崎(高崎市)に1125-1120279-2311836を約2倍の規模に拡張し、同市行幸田313-1に移転、ゴールデンウィーク明けにもオープンする。現高崎店は、国道17号線鯉沢バイパスと国道291号線の分岐点にあり、下り方面からしか入店することができないのに加え、85年のオープンで35年目を迎える老朽化が進んでいたことから移転を決めた。新店舗は県道高崎高崎線バイパス沿いで、近隣にはベトナム系飲食店や川警察署などがある。県内最北の店舗として高崎を中心に沼田、みなかみ、中之条など広範囲をカバーする。敷地面積は4513平方

カスタマイズが可能

三山テクノス

食糧機械などのステンレス加工を手掛ける三山テクノス(伊勢崎市赤堀今井町2-1044-11、赤石祐司社長 0270-611359)はこのほど、個人向け小規模防災シールド「AEGIS(エイジス)」を開発、2月中にも販売を始める。11、12日に同社で開いた完成展示会には地域住民ら100人以上が訪れ、特徴や機能などを体感した。

防災シールド「AEGIS」開発 多発する自然災害への備えに

被被害が発生。富岡では土砂崩れによる家屋の損壊など、本県でも多くの被害が出た。この状況を見て「必ず完成させなければいけないという思いが強くなった」と赤石社長は語る。12月に完成した防災シールドは、ギリギリシャワーで「鉄壁の防御」を可能とする万能的な盾を意味する「AEGIS」と命名。一番弱い部分でも14センチの圧力に耐えることが可能という。サイズは2、3人用から5、6人用までの4通りがある。最も小さいシールドの外形寸法は、横幅3777mm×奥行2300mm×高さ2400mmで、居住スペースは約2.5畳。2段ベッドや備蓄棚などが設置される。出入り口は側面ドアと上面ハッチがあり、希望により側面ドアは4カ所、上面ハッチ2カ所ま

での増設が可能となる。出入り口のドア部分は、水に沈め1週間の水漏れ試験を実施。組み立て後には、シールド内を真空中にし空気漏れがないかを徹底的に検査。さらに水圧がかかることでより密閉される仕組みとするなど、水漏れ防止にこだわった。

赤石社長は「世の中の役に立つ、人を助けることができるものが完成した。自分たちでこれだけのものを作ることができたことは、他の中小企業にも勇気を与えられると思う。途中で断念せずよかった」と話している。

このほか、外部を確認できる監視カメラやシールド内に避難していることを伝える表示灯、リチャムバッテリーなど、災害から身を守るためのさまざまな装備が整っている。価格は1000万円から2000万円ほど。

高崎 今回は、他の中小企業にも勇気を与えられると思う。途中で断念せずよかった」と話している。

社長訪問



オンリーワンの

18歳から防水職人として働く吉沢さん。小学5年生の頃から、県内でも厳しい環境で知られる親方の下で育った。23歳で独立し現在職人歴22年。社長となった今でも職人気質で、仕事のこと、頭を離れない。常務でもある妻の織江さんと「俺自宅で仕事の話をする題

ぐんま経済新聞 logo and masthead information.

発行所 群馬経済新聞社 社(郵便番号371-0017) 前橋市日吉町3-31-17 3F 電話代表 (027)289-0990 FAX (027)289-3045 郵便振替口座 00390-5879 ©群馬経済新聞社 2020

with logo and Fujitsu Consulting Management Group (FCMG) information.

Small advertisement for a company with a logo and text.